

第4回赤磐市まちづくり審議会に係る委員の意見

日時：平成27年6月29日(月)13:30～16:00

場所：赤磐市役所本庁舎2階大会議室

審議会委員意見	
基本構想	
1	資料2のP. 3、「合併10年を機に、オール赤磐で(一枚岩で)取り組んでいく」という投げかけを入れるべき。
2	資料2のP. 3、最後の2行、「多くの市民に」というのは良くない。すべての市民が対象。また、行政と市民が力を合わせていく必要があるので、「市民に夢を与えられる」も良くない(行政が一方向的に与える印象)。「赤磐市民が心を一つにして」などが良い。
3	資料2のP. 35「自然環境保全ゾーン」の削除理由如何。残すべきではないか。
企業誘致による安定的で良質な雇用創出プログラム	
4	企業誘致の目標指標に「どの程度の規模の誘致をするか(4haぐらいが妥当だと思う。）」、「事業税収入(年間4億ぐらいが妥当だと思う。）」を加えるのはどうか。
5	企業誘致では、最先端企業の誘致を目指すべきではないか。
6	現在、総社市が企業誘致を頑張っている。赤磐市もIC等の地理的条件は変わらないので、総社市を研究してみてもどうか。(基本計画に書く必要はないが、事業実施の段階で赤磐市とどこが違うのか勉強してみると良いのではないか。)
商工業・観光振興による賑わいと活力創出プログラム	
7	創業塾の実施等、創業を支援していくにあたって、根本的に重要になってくるのが人(引っ張っていく人材)だと思う。
8	商工会に「サポートセンター」を設けて企業支援を行っているので、活用いただけたらと思う。
9	観光に関して、周遊に加えて「滞在」ということにも触れていただきたい。(農業体験等の新しい観光も考えられる)
10	【上記、「滞在」の意見に関連して】 市内にも良い空き家があると思うので、こういった空き家を使った滞在も検討してほしい。
11	見所が単体だと旅行会社もツアーを組みにくいといった話も聞く。 また、海外からのツアー客が桃狩り等をしたとの新聞記事があった。県の観光連盟等も海外からの観光客を呼び込む働きかけをやっているので、赤磐市も観光連盟等に働きかけを行い、「赤磐市にはこういった所がある」ということを海外のエージェントに知ってもらうことを地道にやっていくのも良いのではないか。
12	赤磐市の歴史も、どう発掘して、面白いところをどうアピールするかによって認知度も替わり、ひとを呼び込むことができるのではないか。
13	商業を発展させようと考えたときに、商売ができる土地が限られていることが問題(赤磐市役所周辺等)。市内の土地をどのようにしていくかということを俎上に挙げてもらいたい。
強い農業の確立プログラム	
14	海外への販路開拓について、市としての方向性、サポートを考えなければいけない。

15	<p>地産地消が大切だと思う。個人やJA主体などいろいろな形態があるが、道の駅のような6次産業やレストランなどを併設した施設が必要ではないか。</p> <p>愛媛にある道の駅の場合、大きな敷地(マルナカぐらい)の中で、精米、観光農園(農地貸し出し)、レストラン等をやっており、売れ残った農産物はレストランで使用する等、生産者の負担(農産物の返品等)が少なくなるようなシステムができています。</p> <p>岡山県内には、これほどの規模の道の駅はないので、赤磐市内でできれば良いのではないかと。</p>
16	担い手の確保と育成は、ひとつの施策にまとめてはどうか。
17	必要な柱立て(施策)はすべて入っていると思うが、これを具体的にどう進めて効果を出すかというところが、力のいれどころだと思う。
18	生計を立てる農業ではなく、リタイア後に楽しむ農業(自給自足(趣味))をしたい人向けの施策はないか。
19	リタイア後に趣味で農業を始めることについて、赤磐市には農業経験者も多いので、近所のそういった方がアドバイスできるシステムがあれば対応できるのではないかと。
20	農業ほど多様な種類の労働力を使える産業はない。高齢者、障害者等も生産者側になれる。最先端の農業(農業経営)以外に、福祉農業のような農業の在り方もあるのではないかと。
安心して家庭を築ける環境創出プログラム	
21	学校等で就職の説明を行う際、人生のビジョン(東京等ではなく、赤磐市で就職し暮らすことの良さ)を描けるようにしてあげることが必要。
22	子どもを育てながら働ける場所(フルタイムでは難しい)が近くにあれば良いと思う。
23	<p>おためし住宅の使い方として、「若い人たちが農業をするために赤坂や吉井等でおためし住宅を利用する。」といった就農に結びつく使い方をするのが良いのではないかと。</p> <p>おためし住宅は、山陽団地等にあってもあまり意味をなさないのではないかと(ベッドタウンに引っ越そうとしている人向きではない)。</p>
24	空き家バンクのホームページを充実させると良いのではないかと。
25	<p>おためし住宅をツーリズムのお泊り住宅として活用するのも良いのではないかと。</p> <p>古い家を市が借り受ける、管理するなどして、お泊り住宅を確保すれば、観光の周遊にプラスして「滞在」も可能になるのではないかと(この場合、古い家であることが逆に良い)。</p>
安心して出産・子育てができる環境創出プログラム	
26	<p>桜が丘地域では、学童保育に入れたいが入れないという声を良く聞く。特に、幼稚園卒園児を預かってくれるところがないと聞く。</p> <p>このため、母親が働きたいけれど働けないという状況にあり、早急に何か手立てが必要。</p> <p>地域のネットワークを有効に使えるか(時間と体力の余っている方(高齢者)をボランティア等で活用するシステム)。</p> <p>島根県雲南市では、高齢者が地域の集会所で近所の子どもをみんなで見守るということをやっている。</p> <p>桜が丘にも地区ごとに集会所があるので、こういったことができるのではないかと(ハードルはあるとは思いますが)。</p> <p>高齢者が勉強を見てあげることもできるのではないかと。</p>
27	「母親同士による子どもの預かりあい」をしている市町村もあるようだ。
28	母と子の健康推進について、母はなかなか健康診断を受けにくい。託児できる場所があればよい。
子どもが健やかに育つ教育環境プログラム	

29	文化財保護に関する施策は、別のプログラムに移動したほうが良いのではないか。
30	現在施策で上がっているのは、通常業務の範囲内のことなので、新たな施策として、「学習環境、教育環境の適正配置・適正規模・適正な質のバランスをどのようにしてオール赤磐市でつくっていくか」についての施策を加えるべき。
31	「ふるさと教育(将来、市外・県外に出た人も、赤磐市に目を向けて何かを発信したり、赤磐市を思うことができるような教育)」に関する施策を組み込むべき。
移住・定住が進むまち創出プログラム	
32	消防団の充実強化について、団員の確保が難しい状況にある。定員を少なくするとか、分団をまとめて一つにするとか、何か方策が必要ではないか。
33	自主防災組織について、防災士がいない組織もあると思う。自主防災組織がきっちりまわっている(機能している)ところもほとんどないと思う。どうやって各地区の防災組織がきっちりまわっていくようにするのか検討してもらいたい。
多世代交流と協働による多機能型の小さな拠点創出プログラム	
34	「③市民が主体のまちづくりの推進」の中に、「各地域で異なるニーズに対応する」ことを目的とした「顔が見える範囲(小学校区や中学校区など)」でのまちづくり協議会の設立やまちづくり条例制定の検討ということを入れてほしい。
高齢者が生きがいを持ち元気に暮らせる地域創出プログラム	
35	「生涯教育」ではなく、「生涯学習」という文言にすべき。
36	「⑤地域での支えあい」について、広報活動等、サービスを知ってもらうための取り組みも必要ではないか。
37	女性とアクティブシニアの活用を検討してほしい。 アクティブシニアが後期高齢者を支えたり、子育ての終わった女性が地域での子育て支援に参加すること等が可能ではないか。 民間で子どもを預かること等に関して、リスクがあるかもしれないが、こういったリスクは行政が負担すべき。 行政だけによるサービスでは対応できない社会がくる。ボランティアという話もあるが、有償で市民にやって持っても良いのではないか。
38	社協、赤磐ボランティアセンターとの連携についても検討してほしい。
その他	
39	計画で定めたものを、どういう手法でやっていくかということが一番大事なところ。市長、職員が情報を共有して、議論を重ね、みんなが思いを共有して課題に取り組んでいくことが大事。